

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市大野田老人福祉センター
2	指定管理者	社会福祉法人仙台市社会福祉協議会
3	指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 人（前年度比 ○○%） 令和元年度 34,461人（前年度比90.1%） 平成30年度 38,223人（前年度比102.3%） 平成29年度 37,374人（前年度比101.9%）</p> <p>《事業》 税理士・行政書士による無料相談、地域包括支援センター相談（月1回）、趣味の教室（11教室）、愛好会（21団体）、認知症予防教室、認知症カフェ（月4回）、介護予防に関する教室、専門職による認知症についての講話（音楽療法士、理学療法士、言語聴覚士、薬剤師）、パワーリハビリ教室、自主事業（パソコン教室、タブレット教室、抹茶体験教室、ピラティス、フィットネスフラ、うたごえ喫茶、終活セミナー、すずめ踊り講習会）、料理教室、健康講話、衛生講話、美容講座、映画上映、各種季節行事、マッサージ教室（月4回）、大野田シニアボランティアグループ（22名）による各種ボランティア活動（認知症カフェ、近隣公園清掃、近隣施設における活動、読み聞かせ・朗読、世代間交流応援）、シニアボランティアグループ交流会及び研修会開催、認知症サポーター養成講座（2回）、AED救命講座、近隣小学校の総合学習受け入れ、近隣中学校の職場体験受け入れ、近隣大学・専門学校の福祉体験学習受け入れ、福祉授産施設による館内販売</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p>・ 指定管理者に支払った費用 30,052千円 (29,909千円) ()は前年度決算額</p> <p>・ その他市が負担した費用 0千円 (1,014千円)</p> <p>《収入》</p> <p>・ 使用料収入 0千円 (0千円)</p> <p>・ その他収入 0千円 (0千円)</p>
6	利用者の声	<p>《実施状況》 センター独自アンケート調査（1回）、仙台市アンケート調査（1回）、事務所窓口への意見箱の設置、管理運営委員会（1回）、地域委員会（1回）</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	老人福祉センターの設置目的を踏まえた基本方針に基づき施設運営がなされており、職員も設置目的を適切に理解している。 また、利用者の健康づくりや、公平・公正な利用、高齢者の特性を理解したうえでの心身への配慮に努めるなど、利用者本位の施設運営を行っている。	33/33
II 施設の運営管理体制	必要数の職員が配置されており、各職員は他の職員の業務状況を把握している。経理処理も書類作成など適正に行われている。 また、個人情報の漏洩や滅失を防止するため、管理責任者を定めるとともに職員への周知等、意識啓発も行うなど、個人情報保護に対する体制を整えている。 併設の児童館やコミュニティ・センターとの合同防災訓練の実施や、事故や災害の発生に備え、連絡体制や職員の役割分担を予め決めているなど、対応体制を構築している。	24/24
III 施設・設備の維持管理	利用者の安全・安心・快適な利用を維持するため、建物等の保守点検や施設内外の清掃を適切に行い、事故防止のための館内巡回も行われている。 また、節電やごみ発生の抑制、グリーン購入を実施するなど、環境に配慮した施設運営を行っている。	24/24
IV サービスの質の向上	利用者が気持ちよく利用できるよう、丁寧な対応と分かりやすい説明を心がけている。 また、毎月のセンターだより発行など、利用者への情報提供や施設のPRも積極的にを行っている。 さらに、利用者の意見や苦情に対し、その対応手順や担当者を明確にするとともに、市が実施する利用者アンケートの他にも独自アンケートを実施してニーズを把握するなど、利用者の意見を反映した施設運営に意欲的に取り組んでいる。	28/28

V	施設固有の基準	<p>高齢者が自ら学んだことを発表する機会の設定を積極的に行なっており、利用者の主体的な企画実施に対する支援も行っている。</p> <p>また、利用者の代表者や地域で構成する委員会を立ち上げ、利用者が施設運営に関わる仕組みづくりに努め、利用者の意見を取り入れた企画の立案を行っている。</p>	9/9
---	---------	--	-----

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人仙台市社会福祉協議会）による自己評価》	
<p>今年度、指定管理者としての指定を受けて4年目の年でもあり、前年度までの実績を糧に、当センターが地域包括ケアシステム構築に一翼を担えるよう、健康増進・認知症予防・地域交流・シニアボランティア拡大に努めた一年であった。</p> <p>特に、「認知症関連事業」に関しては、「認知症予防教室」や「認知症カフェ」について、年間を通して最も重点的に企画した事業であり、特に「認知症カフェ」は開催回数を毎月4回へ常態化することができた。普段話したことのない人同士のコミュニケーションの場を提供することで、一つのコミュニティの形成につながるよう、今後の発展を期待したいと考える。併せてトレーニングマシーンを使用している「いきいき教室」も重点的に運営を行い、従来からの受講者はもとより、新規受講者の増加にもつながり、定着してきたことから、高齢者の健康増進に対する意識の高揚が図れたと考える。</p> <p>地域交流等については、前年度に引き続き地域の方々との関係向上に努め、地域の町内会や各種施設、学校等の会議や行事等にも積極的に参加する機会を増やし、小中学校や大学・専門学校生の体験学習等も受け入れ、将来を担う若者のキャリア教育の発展に取り組んだ。</p> <p>今後、「人生100年時代」「生涯現役世代」を見据え、個人差はあるが、元気な高齢者が増える中、高齢者の意欲を引き出す環境づくりが求められている。当センターとしても各種セーフティネットの役割を担えるよう、更に高齢者の健康増進に努め、高齢者の地域における生活を支えるためにも、関係機関と連携を図りながら、地域包括ケアシステムの構築に寄与できるよう努めたいと考える。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和元年度の管理運営について、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。</p> <p>前年度に引き続き認知症予防や介護予防に関する事業に力を入れており、各種講座を工夫を凝らして実施し、新規受講者の獲得に繋げている。</p> <p>また、交流会や研修会を開催するなど、シニアボランティア活動の活性化に努めており、他館の参考となるもので、積極的な取り組みといえる。</p> <p>加えて、小中学校や大学・専門学校生の体験学習をセンターで受け入れるなど、積極的に地域交流、世代間交流の取り組みを行っている点も評価できる。</p> <p>施設運営にあたっては、市のアンケートのほか、独自アンケートや意見箱の設置などにより、利用者の意見を運営に反映する取り組みも実施しており、総合的に高く評価できる。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局保健高齢部高齢企画課